

第4章 まちなか再生の実現に向けてすべきこと（行動提案）

<都市イメージ>

1. まちなか再生への取り組みと新潟の魅力を積極発信 P56

<商店街>

2. 地区全体の魅力を高める商店街づくり P56
3. 大和デパート跡地再開発の早期実現 P57

<交通軸>

4. BRTの早期整備と市民・事業者・商店街等の機運醸成 P57
5. BRTの効果を全市民が感じられる取り組みを P58

<まちの魅力づくり>

6. 花街の文化を継承し活用する取り組みに総力を結集 P58
7. 萬代橋というかけがえのない財産を活かす P59
8. やすらぎ堤をイベントや賑わい空間に大解放 P59
9. 万代広場と東大通から拠点性と魅力を発信！ P59
10. 関係者によるエリアマネジメントの積極推進 P60

- ・・・ 前章では、中長期的な課題について6つの視点から提案を行いました。これら提案を活かし再生への取り組みを着実に進めるためには、そのプロセス、市民をはじめ多くの人々の理解と協力、関係者の総力を結集する具体的な仕組みづくりが重要となります。ここでは、「まちなか再生」の実現にあたり、未来を切り開く突破口として、今から取り組むべき10項目のアクションプランを提起します。

■都市イメージ

1. まちなか再生への取り組みと新潟の魅力を活発発信

まちなか再生は、市民の共感に加え、これからを担う若い世代の参加が不可欠。映像をはじめとする様々な媒体を活用し、再生の意義と新潟の魅力を活発発信

- 再生への具体的なイメージをまとめた映像DVDを作成し、広く市民に発信していくことで、新たな活動につなげる取り組みを積極推進！！
- 宣伝すべき新潟のブランドイメージを明確化。民間の発想によるキャッチコピーなどを活用し、まずは首都圏をターゲットに戦略的なPRを！！

■商店街

2. 地区全体の魅力を高める商店街づくり

魅力ある商店街の実現に向けて、各個店が市民や観光客のニーズを的確に捉え、商店街の一体的な取り組みにより地区全体の魅力を高める努力が必要！！

- 商店街はコンセプトを明確化し、テナント誘致・魅力的な商品構成、イベントの発信・定着などに取り組む！
- バスICカードの導入（りゅーと）や電子マネーの普及を見据え、大手企業に取り込まれない新潟独自の活用方法として、バスICカードを商業店舗や行政窓口で利用できる電子マネーにするなど、官民の連携によりできるところから即実施。

- さらに、ワンコインバスや商店街による「まちなかバス乗車券」の取り組み、まちの魅力・お店の特徴など古町の持っている良さを積極的に発信！！
- 新潟の文化や偉人を内外に広く発信する拠点づくりとともに、アニメやアート、音楽、ソフトなど新しい創造的活動を育み、若者がそこに生活し、働くことができる“新しいまちなかの魅力創出”を目に見える形で早期に実現。

3. 大和デパート跡地再開発の早期実現

大和デパート跡地の再開発は古町にとって最も大きな関心事。古町全体の再生を進めるためには、地権者だけでなく商店街・行政を交えた議論の進展が急務。

- 物があふれる今、まちなかはイベント、レジャー、カルチャー、スポーツなど体験型、時間消費型の街にならなければ市民の支持は得られない。普段の生活にはない魅力や機能が求められている。

■交通軸

4. BRTの早期整備と市民・事業者・商店街等の機運醸成

まちなかの賑わい創出において、人や物の流れを生み出す新たな交通システムは、効果が期待される有効な手段。市民・事業者・商店街等の早期導入に向けた機運醸成を図るべき！！

- BRTが新潟のシンボルとなり、市民が愛着をもち乗ってみたいくなる公共交通となるように、また、早期導入を目指すためにも、道路空間の構成や走行車線の位置、利便性の向上など具体的な計画内容を示すことが重要である。
- 50年100年を見据えたまちづくりの観点から、新たな交通システムの延伸、LRTの導入、運輸連合による公共交通の運営について議論を継続すべき。

5. BRTの効果を全市民が感じられる取り組みを・・・

再生への取り組みは、人を引き付ける魅力と人を導く市域全体の移動環境を車の両輪として考える必要がある。BRTの整備効果を確実なものとするためにも、今こそ、未来に繋がる公共交通システムを構築すべき時

- BRT導入のほか、ワンコインバスの本格運行、P&R、総合的な運賃システム、ミニ循環バスなど、全市民にとってメリットのある公共交通システムを実現が急務！！
- BRT導入とあわせ、さらなる公共交通の利用促進に市民・事業者・商店街なども積極的に参加し、みずから実践することが重要！！
- 新潟駅連続立体交差事業とは別に、都心軸の賑わい空間の創出や公共交通のあり方において、再開発の可能性を含めた白山駅のデザインが非常に重要な意味を持つ！！ 今から戦略的に考えていくべき。

■まちの魅力づくり

6. 花街の文化を継承し活用する取り組みに総力を結集

交流人口を増やすことが、まちなか再生の大きな鍵となる。まちなかにある新潟らしさ「花街文化」を全国に通ずる観光資源として磨き上げられるか？新潟の本気度が試される。

- 江戸時代に築かれた古町の町建てや花街の文化は貴重な財産。官民を問わず関係者が一丸となったまちづくり体制を早期に構築、保全すべきものは今すぐ保全し、堀の復元など新しい魅力が継続的に創造されるまちづくりを！！
- 鍋茶屋通りは新潟らしい風景スポットになっているが、その周りの商店街の活性化に繋がっていない。風情ある空間を旧斎藤家別邸や旧小澤家住宅といった歴史的施設に拡大して、回遊性を与える工夫が必要！！
- まちあるき観光を通年的に提供できる拠点やサービスのあり方について関係者による議論を進め、共通チケットなどできるものから改善を！！

7. 萬代橋というかけがえのない財産を活かす・・・

萬代橋とやすらぎ堤をうまく結びつけると、今まで気づけなかった萬代橋の6連アーチがもっと身近に見えてくる！ 世界に誇れる水辺環境を今こそ実現！！

- まちなか再生本部と並行して実施した都市デザイン競技の提案を活かし、萬代橋を中心とした信濃川を日本一の水辺空間とすべく、関係者で議論を進め、具体的整備に早期着手。
- 萬代橋から見える角田山、弥彦山の眺望は守らなければならない貴重な財産！ これが見えてしまうようなことがないように信濃川沿いのスカイラインを適切に誘導する仕組みづくりを急ぐ必要がある！！

8. やすらぎ堤をイベントや賑わい空間に大解放

賑わい創りは、新しいものだけでなく、今ある施設を活用する視点も大事。やすらぎ堤や港、広場、道路などの公共空間をもっと民間に解放することで、大きな賑わい効果を早期に発揮！！

- 八千代橋、柳都大橋、やすらぎ堤を歩行者や自転車が快適に回遊できるよう改善。さらにイベントやオープンカフェ、屋台、ジョギングステーションといった、よそが真似できない観光の定番スポットに！
- やすらぎ堤だけでなく、公開空地や道路空間、公共・文化施設を街の賑わいステージとして活用するための環境整備や規制緩和について、早期対応が望まれる。

9. 万代広場と東大通から拠点性と魅力を発信！

新潟駅周辺地区は、初めて新潟を訪れた人が最初に”街“のイメージに触れる大切な玄関口。新しい新潟の魅力を内外に強く発信するためにも万代広場の早期整備を！！

- 新潟の拠点性と魅力を全国に発信するためにも、玄関口となる万代広場から東大通りの都市環境整備が急務。例えば、駅前に多く設置されているガス灯を活かし、歩道をレトロなしゃれた街並みにすることも有効。
- 東大通りは、横断歩道が少なく、歩道橋を渡らなければならないなど歩行者にとって非常に不親切。駅の東連絡通路のバリアフリー化を含め、歩く人に優しいまちといった視点から早急に改善すべき。

10. 関係者によるエリアマネジメントの積極推進

魅力的なまちづくりには、ランドデザインをどう描き運営するかという意味で、地域の主体性が重要な鍵となる。再生本部の議論を実現するためにも、今こそ各地域がそれぞれのエリアマネジメントに行動すべき絶好のチャンス

- 万代地区と信濃川との連続性を活かした憩いとやすらぎの歩行者空間整備、新たな再開発ビルや移転が予定される国土交通省新潟総合庁舎の跡地活用方策に向けて、地域による真剣な議論が急がれる。
- 弁天通りとガルベストーン通りを連続的に結ぶ歩行者空間を整備することで新潟駅前からやすらぎ堤までを一つのエリアとして位置づけ、歩いて楽しめるまち、自然（水辺空間）を取りこんだゆとりあるまちづくりが可能となる。
- さらに、国のまちづくり制度などの積極的活用を視野に入れながら、具体的プランの策定に向けて関係者による議論を早急に進めるべき！！